

授業づくりのポイント

○一般的な行政の仕組みの学習を通して、自分たちの住む自治体の行政に当てはめて、考えることにより、自分たちの住む自治体でも、身の回りで防災に関する備えや取組が確実に行われていて、それにより自分たちが守られていることを理解する。

単元（題材）について

1 小単元名 「災害からわたしたちを守る政治」

2 目 標

Ⅲ－7 災害への備えと安全な生活

災害に負けないまちづくりを進めていく行政の仕組みを調べる学習を通して、自分たちの住む自治体の共助や公助の役割を理解することができる。

3 教材化の視点

東日本大震災や西日本豪雨での被害、東京都での直下型地震の被害想定などの資料をもとに学習問題を作り、指導計画を立てる。調べる段階では、国や地方公共団体の取組を中心に市民との関わりを取り上げ、市民の安全の為には様々な機関の取組が関連していることに着目させる。さらに自分たちの住む、東京都や福生市での取組について具体的に調べ、政治は私たちの安全にも深く関わっていることを理解する。

指導計画（8時間扱い）

時間	○主な学習活動	◎安全教育の視点に立った留意点
1	○東日本大震災や西日本豪雨の被害、東京都の直下型地震の被害想定について調べる。	◎「防災ノート ～災害と安全～」や西日本豪雨の新聞記事を活用する。
2	○災害時の緊急対応における取組について、疑問を出し合い、学習問題をつくる。 災害からの復旧や復興への人々の願いは、政治の働きによってどのように実現されるのだろうか。	
3	○災害の支援に向けた国や自治体の取組を調べる。 ○学習内容と自分たちの住む市の体制を比較する。	◎市役所の災害対策の部署の働きについて調べさせる。
4	○資料を基に、国会や県、市議会の働きを調べる。	
5	○税金の集められ方と使われ方について調べる。 ○自分たちの市の防災に関する予算額を調べる。	◎今年度の市の予算案のグラフから防災に関する予算額を調べさせる。
6	○人々の復興への願いと取組を調べる。	◎市民・自治体・国の連携を捉えさせる。
7 (本時)	○県や市の復興に向けた取組を調べる。 ○自分たちの住む市の防災に関する事業を調べる。	◎「防災ノート ～災害と安全～」や市の防災の広報誌を活用する。
8	○これまで学習したことを関連付けて、政治の働きについて整理してまとめ、話し合う。 災害からの復旧や復興に向けて、国・県・市は法律を制定したり、予算を執行したりするなどして、計画的に地域の再建や人々の生活の安定を図る取組を行っている。	

## 指導事例（第7時／8時間）

### 1 ねらい

- ・国や自治体が行う災害に強いまちづくりへの取組を理解し、自己や地域が行う取組の大切さについても考えることができる。
- ・国や自治体等の公助が、自分たちを災害から守る役割を担っていること理解し、同時に身の回りの地域の共助や自助の必要性についても考えることができる。

### 2 ポイント

国や自治体等の公助が、自分たちを災害から守る役割を担っていること理解し、同時に身の回りの地域の共助や自助の必要性についても考えることができる。

### 3 指導の実際

	○主な学習活動 ● 学習・発問テーマ	◎支援・留意点 ■評価（評価方法）
導入	<p>○より良いまちづくりのために関わる人々や関係機関のつながりを整理する。</p> <p>●人々が暮らしやすいまちづくりを進めていく上でどのような人々や機関が関わっていましたか。</p>	<p>◎市民の願いを起点にして施策の実現までの流れを想起させる。</p>
	災害に強いまちづくりのためにどのようなことが大切なのか考えよう。	
展開	<p>○復興に向けて行われる高台移転や堤防再建について調べる。</p> <p>●釜石市では、現在どのような取組が行われているのでしょうか。</p> <p>○災害から自分たちの命や暮らしを守るために何が必要かを考え、話し合う。</p> <p>●自然災害の多い日本では、わたしたちの命や生活を守るために国や県のどんな取組が必要でしょうか。</p> <p>●国や県の取組にはどんな課題があるのでしょうか。</p>	 <p>◎「防災ノート～災害と安全～」P. 75～P. 80も活用し、被災していない地域の普段からの備えも含めて考えさせる。</p> <p>◎平成30年西日本大豪雨も想起させる。</p>
まとめ	<p>○災害に強いまちづくりを行うために大切なことを考える。</p> <p>●災害に強いまちづくりを行うために大切なことをまとめてみましょう。</p> <p>-----</p> <p>災害に負けないまちをつくるには、そこに暮らす一人一人が災害に備え、自助・共助・公助を組み合わせることが大切だ。</p> <p>○自分たちの住む市や身の回りの防災に関する事業の実際を調べる。</p> <p>●わたしたちの身の回りの地域や、市では災害に強いまちづくりのためにどのようなことを行っているのでしょうか。</p>	<p>■校内や学区の防災に関する施設・物資等の写真、防災マップの拡大図を活用し、国や自治体が行っている災害に強いまちづくりへの取組を理解している。（ノート・発言）</p> <p>■国や自治体の公助が、自分たちを災害から守る役割を担っていることを理解し、自己や地域が行う取組の大切さや身の回りの地域の共助や自助の必要性を理解している。（ノート・発言）</p>

### 児童の感想

- ・災害に負けないまちづくりのために、国や市が大規模な予算と時間をかけて取組を行っていることが分かった。
- ・いざという時、まずは身近な対策が役に立つので、自分の家での備えや危険を確認しようと思った。

### 児童の変容

- ・児童は、自分たちの生活と政治の関連について実感が薄かったが、災害対策から政治の働きを見ることを通して、自分たちの生活に政治の働きが深く関わっていることを理解し、その大切さを考えることができるようになった。

## 自助のために必要な知識と共助のために必要な心を育てる学習の事例

災害

中学校 第2学年 教科等（社会科、理科、保健体育科、特別の教科 道徳）

### 授業づくりのポイント

- 災害安全について自助や共助の精神を育成するためにも、各教科の年間指導計画に位置付けられている災害に関する学習内容を他教科とのつながりを意識して実施する。
- 道徳科の授業では、「ともに支え合う」という心の教育、実践意欲を高めることを意識して授業を行う。

### 単元（題材）について

1 題材名 「自助のために必要な知識と共助のために必要な心の成長」

2 目標

Ⅲ－4 気象災害時の安全

風水害、雪害の危険を理解し、安全な行動ができるようにする。

Ⅲ－6 避難所の役割と貢献

災害発生時における避難所の役割とそこでの生活を理解し、自分にできることを実行しようとする。

Ⅲ－7 災害への備えと安全な生活

災害安全に関する意識を高めるために、避難訓練・防災訓練等の意義を理解し、積極的に参加できるようにする。

3 教材化の視点

河川の氾濫時に大きな被害が予想される地域では、あらかじめハザードマップを作成することで危険な地域、安全な避難場所を把握し、万が一災害が起きた時には自分の身は自分で守れるような判断力を養わなければならない。そして、避難所で地域に貢献できるような実践的な知識や奉仕の精神を育み、自助そして共助を率先して行えるようになればと教材選定した。

### 指導計画（4時間扱い）

時間	○主な学習活動	◎安全教育の視点に立った留意点
1	○ハザードマップを作ろう 【社会科】	◎身近な地域の調査を通じて、災害時に危険が予測される場所を把握する。
2	○大雨災害時の適切な避難行動 【理科】	◎実際に災害が起きた時の適切な避難方法をシミュレーションする。
3	○災害時に想定される応急手当 【保健体育科】	◎災害時に怪我をした場合を想定し、実践的な応急手当の方法を学ぶ。
4 (本時)	○『災害の中で』ともに支え合う 【特別の教科 道徳】	◎災害時にボランティアなどに参加し、ともに支え合う共助の精神を育む。

### 指導事例（第4時／4時間）



1 ねらい

社会・地域のためになんとかしなければという奉仕の気持ちを大切にして自分の立場を見つめ、社会に関わっていく自分のより良い生き方を考えさせる。

## 2 ポイント

- ・実際にロールプレイをすることで、相手の心理を共感的に理解する。
- ・生徒がワークシートに書いた意見は全体で共有し、多様な考え方があることを理解しながら、大切なことをまとめていく。

## 3 指導の実際

	○主な学習活動 ●学習・発問テーマ	◎支援・留意点
導入	<p>○阪神・淡路大震災の写真を見て、当時の様子を知る。</p> <p>●これから起こる可能性が高い首都直下型地震。その時、自分はどう行動しますか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>奉仕・ボランティアの精神を学び、自分ができることを考える。</p> </div>	<p>◎被害の様子だけではなく、震災後のボランティア活動の様子なども紹介する。</p> 
展開	<p>○資料『震災の中で』（東京書籍2年）の後半途中までの範読を聞く。</p> <p>○[ボランティアの人]と[弁当を受け取る時に、文句を言った人]とに分かれてロールプレイをし、気持ちを考える。</p> <p>●それぞれ、どのような気持ちで言っているのでしょうか。</p> <p>○どのような言葉が適切かペアで考えて、発表する。</p> <p>○『震災の中で』を最後まで範読を聞く。</p> <p>●作者が見つけた「人間としてすばらしいもの」とは何でしょうか。</p> <p>○個で考え、ペアで発表し合い、全体で共有する。</p> <p>○もう一度、個人で考えて自分のワークシートに記入する。</p>	 <p>◎葛藤する思いの中、作者の気持ちが前向きに変わっていく様子を捉えさせる。</p> <p>◎ともに支え合うことの大切さ、社会への奉仕を進んで実践しようとする大切さを自分のこととして考えることができるか。</p>
まとめ	<p>○授業で学んだこと、考えたことを振り返る。</p>	<p>◎教師の説話</p> <p>◎「ともに支え合う」という主題に迫る投げ掛けを行う。</p>

### 生徒の感想

- ・「人を救うのは人しかいない」という言葉にハッとして、とても印象に残った。
- ・人は追いつめられると、普通の気持ちを失ってしまうものだという意見に共感した。
- ・何かあった時に役に立てるように、防災や減災についての知識を身に付けたいと思った。
- ・中学校が避難所になるので、その時はボランティアに参加したいと思った。

### 生徒の変容

- ・人と人は支え合って生きるものであることに気付くことができた。
- ・災害が起こって大変な時に、相手の立場になって考えることの大切さに気付く。
- ・中学生として、地域を支える防災リーダーの自覚をもった生徒や、ボランティア活動に対して積極的に参加する生徒が増えた。